

## 児童生徒の生活とキャリア発達段階

### キャリア発達段階とは

社会との相互関係を保ちつつ自分らしい生き方を展望し、実現していく過程の中に、生活年齢に応じて変化していく特徴や課題があると考えます。**特徴や課題を含むキャリア発達の変化の段階**をキャリア発達段階とし、知的障害のある児童生徒においては学部(学校)の各段階に応じていると捉えました。

児童生徒の生活を考えるときに、知的障害の状態や特性、学習状況や経験、本人の興味や関心、家庭環境など様々な要素があり、個によって大きく異なります。

しかし、障害の有無や軽重に関わらず、学部(学校)の段階ごとのキャリア発達段階があり、時期的な特徴と課題があります。国立特別支援教育総合研究所が作成した「知的障害のある児童生徒の『キャリアプランニング・マトリックス(試案)』」は、職業生活のみならず、家庭生活や地域生活を踏まえたライフキャリアの視点を取り入れられています。「キャリア発達の段階」及び「キャリア発達段階の解説と発達課題」を参考にすることで、学部(学校)の段階に応じた児童生徒の生活を捉えやすくなります。

### キャリア発達の段階、キャリア発達段階の解説と発達課題

	小学部(小学校)	中学部(中学校)	高等部(高等学園)
キャリア発達の段階	職業及び生活に関わる基礎的な能力獲得の時期	職業及び生活に関わる基礎的な能力を土台に、それらを統合して働くことに応用する能力獲得の時期	職業及び卒業後の家庭生活に必要な能力を実際に働く生活を想定して具体的に適用するための能力獲得の時期
キャリア発達段階の解説と発達課題	未分化であるが、職業及び家庭・地域生活に関する基礎的な能力の習得と意欲を育て、後の柔軟性に必要な統合する能力習得の始まる時期。キャリア発達の視点からは、学校及び生活に関連する諸活動の全てにおいて、遊びから目的が明確な活動へ、扱われる素材が身近なものから地域にある素材へ、援助を受けながらの活動から自主的・自立的活動へと発展しながら全人的発達を遂げる時期。働くことに対する夢や意欲を育てる。	小学部段階で積み上げてきた基礎的な能力を、職場(働くこと)や生活の場において、変化に対応する力として般化できるようにしていく時期。キャリア発達の視点からは、職業生活に必要な自己及び他者理解を深め、実際の職業体験を通じて自らの適性に気づき、やりがいや充実感の体感を通して、職業の意義、価値を知ることや学ぶ。自己の判断による進路選択を経験する時期。	中学部段階で培ってきた能力を土台に、実際に企業等で働くことを前提にした継続的な職業体験を通して、職業関連知識・技術を得るとともに、職業選択、及び移行準備の時期。キャリア発達の視点からは、自らの適性ややりがいなどに基づいた意思決定、働くことの知識・技術の獲得と必要な態度の形成、必要な支援を適切に求め、指示・助言を理解し実行する力、職業生活に必要な習慣形成、経済生活に必要な知識と余暇の活用等を図る時期。

【参考】知的障害のある児童生徒の「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」国立特別支援教育総合研究所